

平成六年版
違ったかった友の顔
鵬友会総会フォトライブラリー



O B 最前線

「備前焼作家をめざして」

碑田 茂雄(50年度卒)

ちようど窯焚のまつ最中、夕方からの交代に備えて仮眠中、突然の電話に驚きました。同窓会の会報に寄稿するようにと、しかし、寝ボケているし、窯焚が終わると死んだように眠ってしまい、約束を忘れることもしばしば、大変な事を引き受けたんじやなろうか？

私の卒業したのは昭和五十一年、ちようど今年のような就職難の時代でした。就職活動も情報が少なかった上にすつかり出遅れて、やつと地元岡山の小きな会社に決まりました。とくに、金融論の講義で不可が続き卒業式も荒れて流れてしまい、卒業証書が郵送で手元に届くまでは、親にまで、「お前、本当に卒業したんじやないか？」と疑われる始末、今では笑話ですが。他の会社で何年間か働き、あとは家業を継ぐ予定でしたが、性格的にどうしても営業になじめそうにありません。そんな時に、備前焼の陶工養成所があることを知りました。もつとも、作陶など経験がありません。いったいどうなることかと不安ながらも、陶芸センターという養成所に無理やり入所させていただきました。二年間研修することになりました。粘土に触るのは小学校以来、ロク口は生まれて初めてという有様です。備前焼は今でも登窯という安土桃山時代以来の様式の窯を使っています。(窯焚に様する日数は約二週間、使用する松割木は4トトラック二台分)それから三年間弟子として過ごしました。もうその頃には、あまり不安はなく、ただ独立して窯を持ちたいという希望のみでした。

窯の土を探しが一番大変でした。なにせ松割木を焚くものですから、黒煙がモクモクと出ます。近くに民家でもあれば苦情が出て大変です。やつと土地が決まり、市役所の許可を待ちながら、造成と築窯、その年末に窯が完成し、一月から窯詰と窯焚。忘れもしません、窯焚の終わった二月六日早朝に、長女の出生、作品と子供が同時に生まれたのです。この時のことは生涯忘れないうでしょう。初窯は焼き上がりも売行も上りました。

「私と鵬友会との関わり」

笠岡 一之(54年度卒)

私と鵬友会との関わりは古く、大学卒業の年まで遡ることが出来ます。当時は現在、本部の相談役を勤める草野氏が会長を勤め、80年3月から本格的な同窓会を発足させるべく奔走しておられました。お陰様で我々の期は卒業式のパーティで鵬友会会長の祝辞を受けて卒業することができたのです。私が東京に勤務したことも手伝い、10数年間は記憶から消え去っておりまして。この間、鵬友会が閉店休業状態にあつたことを後で知り驚かされました。再び付き合いたがったのは91年に有楽町で催された関東地区鵬友会の発足パーティに出席したことが契機になりました。関東地区には松田大川内/徳丸氏などの熱心な諸先輩がおり、他大学に比べて在京の卒業生が少ないという負目もあつてか参加者は少ないながらもパーティは盛り上がりついでました。私も年度の幹事を勤めるなど末席を汚しておりましたが、家庭の都合で93年に出身地の関西に戻つくと同時に、縁あつて今度は関西の幹事を勤めることになりました。どこに住んでいても母校の同窓会があるというところは素晴らしいことだと思えます。さて3月に神戸で行つた同窓会も結構盛り上がりついでました。年齢差は20歳以上、職業もサラリーマン、公務員、自営業者は当然のことながら、他に卒業生から苦労されたことと想像してありますが、小学校の教諭、公認会計士、さらに驚いたことに医師やお坊さんまで様々な同窓生が集い、和気あつた時間を過ごすことができました。これは私のように他地区の同窓会が経験したものにしか理解できない感覚かもしれません。同じ大学の同窓生であつても長く関東と関西に分かれて過ごしている内に、ごく自然と東京風、大阪風といったお国ぶりが生じてきており、地域をまたがる面白さを感じると同時に興味深いところだと思います。私は東京、大阪そして長崎とどの地区のお国自慢にも荷担したくないので特に立ち入ったコメントは差し控えたいと思いますが、一言で表現するならばテレビの東京番組と大阪番組の違いと想像していただければと思います。この様な関西地区の同窓会に興味をお持ちになられた方は、次の機会にはぜひとも我が鵬友会にお集り下さい。

「ふりがえつてみれば」

岡本満里子(50年度卒)

私の学生生活はビートルズ、ロッキングストーンズ、サンタナなどのロック系の音楽ばかり聞いて、毎日、アルバイトに明け暮れていた。結果は追試四科目、何とか合格したが、あの年の卒業のこ

鵬友会の今後について

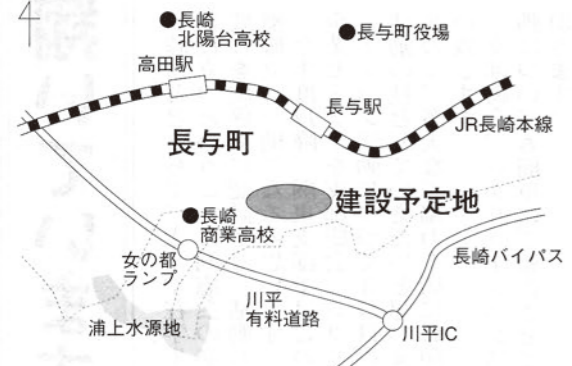
鵬友会会長 前田敬一

未だ、その三分の二を過ぎたばかりだというのにも関わらず、平成七年は戦後五十年目と言う歴史の意味以上に、多くの衝撃的事件をもって我々の記憶の中に残されようとしています。

多数の尊い人命を失い、大都市を破壊した阪神大震災に始まり、封鎖的宗教集団の反社会的無差別的毒ガス攻撃、また金融不安による多数の金融機関の経営破綻等の事件は、おそらくどれをとっても戦後五十年間に於いても未曾有のことばかりの連続でありました。

わが県立大学に於いても、また鵬友会に於いても同様に、その創設以来の大きな渦の中に有りました。それは県立女子短期大学の四年制昇格運動と県立の看護大学の設立に県立大学をからめることから始まりました。

新大学の設立については、長崎県の財政規模では県立大学は一所が望ましく、即ち県立大学の中に学部を増設するのが望ましいとした諮問機関の答申を受けた県当局が、その新学部の設置場所を、何故か当然の如く佐世保を外して動き始め、分離キャンパスが建前であるかのように、大村や長与や長



新県立大学 長与町設置に決定！ 関係者から再考を求める猛反発の声多発



去る、八月十一日高田知事は、予てより懸案の、新長崎県立大学を西彼・長与町に設置することを決定し発表した。しかし、この決定には多くの問題点が感じられ、再考を求める声が関係者より上がっている。そもそも、この大学設置構想問題は、鳴滝同

Vol. 8
長崎県立大学同窓会 鵬友会会報
おひとり
発行 長崎県立大学鵬友会
佐世保市川下町二二三(大学内)
☎〇九五六一四七五一一四六
〇二二〇一四七一九〇四四

窓会の県立女子短大の四年制大学昇格への要望と、県看護協会からの長崎保健看護学校の短大昇格請願の二つから端を発している。ただ、自治省の内規に「人口二百万人以下の県では、四年制大学一校、短大二校」と明言されており、当然のこととして県立大学の学部増設として動きだすものとして捉えられていた。しかし、平成十一年四月開校に向けて県は「県立女子短大の四年制昇格」、佐世保市は「県立大学の新学部」だと主張、すれ違いを生じている。昨年二月の知事選で高田知事が言った「県立大学の総合化を目指す」という公約を無視しての決定に、何か釈然としないものを感じる。政治の舞台裏で一体何が行なわれているのだろうか。

残念ながらこの陳情も空しく、県は様々な理由から西彼杵郡長与町に新県立大学を設置することを八月に発表、長崎県立大学の総合化は、雨散霧消に帰してしまつた次第です。社会的少子化が進む中、全国的な学生数の減少は大学の存在そのものを脅かすつつあります。更に、バブル崩壊後の長引く不況と、就職難により大学の質が問われる時代になっています。長崎県立大学の存在も、決してこの社会的な動きの中にあつては安穩としていられると言うことは出来ません。個性ある大学、世の中に求められる魅力ある大学を目指し、母校の発展を強く後押ししていく同窓会の活動を、今後我々は行って行かなければならない。今回の長崎県の新大学の設立の問題は、鵬友会の今後について考えさせる良い機会であつたと思えます。

全国各地でおとり達が翔いています。〔各支部活動状況〕

関東支部
 ●支部長 宏 (52年度卒)
 小室
 ☎0429-72-7631
 (自宅) 飯館市美杉台1-20-15

関東支部活動報告

関東支部では予てより東京在住のOBならでの活動として、在校生の就職活動に対してバックアップ出来ないものかと考えておりましたところ、大学当局とコンタクトがとれ、この度大学との共同企画の形で、3年次生を対象にした企業セミナーを東京で実施致しました。その概要について報告させていただきます。

	午前	午後	夜
7/12 (水)		学生集合	OBとの懇談会
7/13 (木)	企業訪問&市場等観察		OBとの懇談会
7/14 (金)	市場等観察	学生解散	

★内容
 ①企業訪問
 参加36名の学生が4班に分れ、ジャスコ(株)様、三和シャッター工業(株)様、環境エンジニアリング(株)様、(株)エイティエフコクブ様の4社をOBが引率して訪問し、企業の担当者から会社概要や採用状況についてのレクチャーを受けたり、実際に作業現場を見学させてもら



②市場等視察

東京ならではの場所を見て回ろうというところで、東京証券取引所、新宿カメラ量販店街、秋葉原電器店街、東京デイズニールランドを見学しました。

③OBとの懇談会

私学会館に会場を設けて、関東在住のOB18名が自社の会社案内や現在の仕事の説明あるいは自分の就職活動についてスピーチし、学生からの質問を受けていただきました。2日間とも2時間の予定時間をオーバーし、会場側から注意が入るほどでした。初めてということ、事前に企業セミナーの内容を十分にOBの方々に伝えることができず、極一部の方の援助にとどまりましたが参加した学生の反応もよく、地方の公立大学がということ、雑誌からの取材申込みもあり、こういった企画は時機に適していると確信いたしました。また、同窓会の活動が自分達の

親睦にとどまらず、大学や在学生に役立つということは同窓会の必要性を関係者に認識させ、活動基盤確立の一助になると思います。今年度以降、関東支部ではこの企業セミナーを支部総会、レクリエーション活動につづく3つ目の活動の柱としていきたいと思っておりますので、多大なご協力を切にお願い致します。

支部総会、レクリエーション活動についても簡単に報告させていただきます。
 今年度の支部総会は、十一月十一日(土)午後四時から南平台会館03・3464・2431に決まりました。追って往復ハガキで連絡をします。出欠に関わりなく返信ハガキの投函をお願いします。レクリエーション活動は五月二十七日(土)大田区平和島公園でバーベキュー大会を実施しました。家族を含めて77名の参加者が楽しい一時を過ごされたのは、実行委員の釘田千早さん(58年度卒)、田中睦さん(60年度卒)、阿部良子さん(4年度卒)、西村千鶴子さん(4年度卒)のご尽力によるものです。参加者を代表してここにお礼を申し上げます。

関東支部の後輩たちを思いやる気持ちに脱帽致します。
 各支部でも何か情報がありませんでしたら、大学学生課又は事務局へご連絡下さい

未曾有の恐怖体験

関西支部
 ●支部長 純博 (47年度卒)
 小原
 ☎06-875-6286
 (自宅) 吹田市山田西1-23-A13-607

寒気厳しい夜明け前、不気味な揺れの中でなすすべもなく、家具の倒れる音、食器の割れる音を聞きながら布団に潜り込んだ時は、恐怖そのものでありました。これが一月十七日午前四時四十六分阪神地区を襲った大震災のはじまりと...
 未曾有の大惨事となり、神戸を中心に街は廃墟と化し、都市機能は完全にマヒしてしまいました。情報網がズタズタにされた中で、余震に脅えながら変わり果てた西宮の街をリュックに水、食料をつめてただひたすら歩き、知人の安否を確認していく時の不安は余りにも重苦しく、苛酷なものでした。今回の大震災は、関西支部会員の皆様も物心共に大きな傷心を持ちました。家屋損壊が十名を越えた現状では言葉が失います。ただ、全員が無事でありました事がなによりのお慰めでした。

また、このような状態の時、実情把握に関西支部会員の皆様の多大な協力に深く感謝致すと共に、返信ハガキに不撓不屈の精神が込められている時など、おもわず涙するものでした。「命をいとおしみ、力を尽くして生き抜く」力強さと、感じるものでした。また、前田会長はじめ事務局に

第二回総会を開催

中国支部
 ●支部長 勝巳 (46年度卒)
 久川
 ☎0849-62-2863
 (自宅) 広島県深安郡神辺町徳田2043



平成3年11月念願の中国支部が設立されて以来、中国地区各地域においてそれぞれ親睦活動を行なってきたが、平成6年11月6日、3年ぶりに第2回中国支部総会が広島市において開催された。中国地区各地より会員17名、前田本部長をはじめとして、来賓3名の総勢20名の総会となった。

福岡支部
 ●支部長 千昭 (46年度卒)
 浜辺
 ☎092-885-0358
 (自宅) 福岡市愛宕2-2-4-303

福岡支部活動報告

関西地区を突如襲った阪神大震災で幕を開けた一九九五年、今なお傷跡の残る関西支部の皆様には心よりお見舞い申し上げます。さらに、現在も世の中を騒がせている仮面をかぶった宗教集団、史上最低の公定歩合等々、今年も、これまでにない歴史に残る年であろうと推察。

そんな中、我が福岡支部では湿った空気を吹き払うがごとく、支部総会及び親睦会を開催。七月二十三日(金)・博多城山ホテル。参加者は、坂井先生、本部からの前田会長を含め二十余名。懐かしさで話が弾み、それにしてもどこか関西支部の仲間を思いやり、ふと顔を曇らす出席者達。やはり同窓会の絆は強い、そう感じさせたひととき。八月、西彼・長与に新設の県立大学を設立との新聞発表が。今後の

佐賀支部
 ●支部長 久生 (45年度卒)
 空閑
 ☎0955-46-3201
 (自宅) 西松浦郡有田町曲川2-2608

来たれ 同窓諸氏

我が鵬友会同窓諸氏、日本いや世界各地にて活躍のことごとく同慶の至り。ところで、右のイベント開催ご存知?ご存知なければ至急、佐賀の知己に問うてくれ。必ずや旧交を暖める場となるであろう。我等とて、佐賀県民の一人、誇りをもってご推薦申し上げたい。しかも、その組織の中核として我が仲間も大奮闘中。



九州で初認定のジャパンエキスポ'96「世界・火の博覧会」へ

大学の発展に支障がなければただ祈るばかり。ただ、同窓会の輪を少しでも広げる努力をすることには変わりはない。年末・年始には忘年会又は新年会として開催する予定。福岡支部皆さんの多数の出席を期待。それについても出欠ハガキの返却率の悪さが気にかかる。これが福岡支部の緊要の課題か。みんなの力を少しづつつけて欲しい。



■主催/佐賀県 (世界炎の博覧会実行委員会) 平成8年7月19日(金) 10月13日(日) 87日間
 ■会場/有田地区会場(メイン) 九州陶磁文化館会場 吉野ヶ里サテライト会場他
 ■テーマ/「燃えて未来」
 後は、各人各様の連絡網で、熱い感動を求めて、是非ご来県を。次に、鵬友会への熱き想いを、過日、ある新聞に「同窓会を論ず」という記事がのつていた。それにならって、鵬友会への熱き想いを述べたい。
 一気がついてみると、三十路を越えたころから...中略...あいつ、どうしているかな 懐かしさもあふるし 人生なんていろんな生き方があっていいんだよな...中略... 乾杯の発声などを求められたときに、必ず私は言う。「同級(窓)会というものは、出席するのがよいのです。人生をそれなりにうまく生きていく人がここに顔を出すのであって、出席は幸福の印でもあるわけです」60%位の真実である

長崎支部
 ●支部長 博資 (46年度卒)
 植木
 ☎0958-42-3367
 (自宅) 長崎市三芳町6-23 三芳第2アパート401

いつもとは違った趣向で開催

平成七年六月十日(土)、ワシントンホテル(佐世保市)開催の役員総会に出席した。久しぶりで会った懐かしい先輩、後輩、そして同期生。
 今や、我が母校も長崎県立大学と名称も変更になった。そして学生の気質も変わったらしい。鵬友会各支部の発言に耳を傾けているとどうやら何処も支部の集まり具合が芳しくないようだ。集める手段が尽きたらしい。長崎支部も人後に落ちない。もともと鵬友会は任意団体だから、参加する参加しないは個人の意思であり、強制されるところでもない。

こんなつまらないことをダラダラ書くことは止めた。兎に角、個々で、お互いに呼びかけて行き着くところまで行く。そしたら適当な処に落ち着くだろう。そして、そこでまた考える。皆さんも考えて下さい。

留学生激励会

六月十二日(日)に恒例の留学生激励会を月華荘に於て開催した。今年も、前田会長発案の屋外での焼肉パーティーを予定していたが、あいにくの雨で取りやめとなり、急遽、お座敷でのすきやきパーティーとなり、役員家族を交えての一風趣を異にした激励会がとり行なわれた。

宴が進むにつれ、留学生の間から流暢な日本語でのカラオケの披露があり、中にはマイクを離さない留学生もおり、学内ではみられない一面を披露してくれた。3時間という時間が非常に短く感じた夏の一夜だった。



平成6年度予算及び決算報告書

平成7年度予算

(収入の部) (単位:円)

科目	予算金額	実績金額	備考
1 会費(卒業生)	600,000	792,000	@12,000×66名
2 会費(新入生)	6,084,000	6,120,000	@12,000×(509+1)名
3 名簿代	0	6,000	@3,000×2名
4 預金利息	16,000	6,509	事務局 224 本部会計 6,285
5 雑収入	0	441,000	※441,000
(小計)	6,700,000	7,365,509	
前年度繰越金	2,258,705	2,258,705	
合計	8,958,705	9,624,214	

(支出の部)

科目	予算金額	実績金額	備考
1 鵬祭援助金	250,000	250,000	10/6鵬祭に実行委員会へ
2 卒業記念品代	300,000	281,930	3/22テレホンカード500枚購入
3 通信費	1,000,000	936,816	※910,405 本部26,411
4 人件費	800,000	726,550	事務局給与703,150 発送23,400
5 支部活動費	1,400,000	1,000,000	関東.関西.中国.福岡.長崎5支部
6 旅費交通費	300,000	289,415	※272,060 福岡支部出張17,355
7 渉外費	550,000	554,815	※304,815 本部250,000
8 事務局費	350,000	303,844	※78,892 パソコンリース224,952
9 印刷費	55,000	462,143	※346,786 本部115,360
10 鵬友会基金特別積金	1,000,000	1,000,000	定期預金
11 記念品代	0	0	
12 30周年特別積立金	400,000	400,000	定期預金
13 部活援助費	300,000	110,000	※9/20プラス部援助50,000他
14 予備費	100,000	20,000	本部 卒業式清書代
15 留学生関係費	200,000	150,870	※10/25留学生激励会
16 会議費	150,000	225,117	※198,117 本部27,000
17 総会費	1,000,000	784,566	※784,566
18 雑費	0	26,809	※26,809
19 鵬友会特別奨学金	300,000	300,000	※300,000
(小計)	8,950,000	7,822,875	
次年度繰越金	8,705	1,801,339	
合計	8,958,705	9,624,214	

《収入合計》9,624,214—《収出合計》7,822,875=《次年度繰越金》1,801,339 ※は事務局経費

平成7年6月10日 鵬友会会長 前田 敬一

収支決算書及び附属書類は適正であり、その計算は正確と認めます。
会計監査 田代 宗義・荒木 義伸

(収入の部) (単位:円)

科目	予算金額	備考
1 会費(卒業生)	600,000	@12,000×50名
2 会費(新入生)	4,440,000	@12,000×370名
3 名簿代	0	
4 預金利息	2,500	
5 雑収入	0	
(小計)	5,042,500	
前年度繰越金	1,801,339	
合計	6,843,839	

(支出の部)

科目	予算金額	備考
1 鵬祭援助金	150,000	
2 卒業記念品代	250,000	
3 通信費	1,000,000	
4 人件費	800,000	
5 支部活動費	700,000	
6 旅費交通費	150,000	
7 渉外費	200,000	
8 事務局費	350,000	
9 印刷費	550,000	
10 鵬友会基金特別積金	1,000,000	
11 記念品代	0	
12 30周年特別積立金	400,000	
13 部活援助費	200,000	
14 予備費	100,000	
15 留学生関係費	100,000	
16 会議費	75,000	
17 総会準備金	500,000	
18 雑費	168,839	
19 鵬友会特別奨学金	150,000	
(小計)	6,843,839	
次年度繰越金	0	
合計	6,843,839	

**同窓会は終身会費で
運営されています。**

本学も30周年を迎えようとしていますが全国各地において活躍している声が届いております。同窓会本部としても嬉しいかぎりです。今後も名簿の充実、全国各地の支部活動の支援、更には30周年記念式典へ向けての活動など、いろいろな事をやらなくてはなりません。現役学生からは、入学時に全員、終身会費(12,000円)を頂いておりますが、卒業生の皆様からの納入状況は約40%となっております。今後の本学の発展を願うには余りにも淋しい数字です。まだ未納の卒業生の皆様、ご理解の上同窓会費納入にご協力下さいますようお願い申し上げます。 鵬友会本部